

## 調査研究チーム報告

- ◆ 平成22年度 先導的大学の改革推進委託事業
- ◆ 検討実施体制（医学教育コア・カリ改訂）

	氏名	所属・職
国立大学 法人	井上 玄	千葉大学大学院医学研究院（整形外科）・助教
	北村 聖	東京大学医学教育国際協力研究センター・教授
	鯉淵 典之	群馬大学大学院医学系研究科（応用生理学分野）・教授
	小林 直人	愛媛大学大学院医学系研究科（医学教育学分野）・教授
	田中雄二郎	東京医科歯科大学附属病院総合診療部・部長・教授
	名川 弘一	東京大学大学院医学系研究科（腫瘍外科学分野）・教授
	奈良 信雄	東京医科歯科大学医歯学教育システム研究センター・センター長・教授
	錦織 宏	東京大学医学教育国際協力研究センター・講師
	公立	後藤 英司
私立	大滝 純司	東京医科大学（医学教育学）・教授
	平出 敦	近畿大学医学部附属病院救急診療部・部長・教授
一般病院・ 有識者	嶋森 好子	東京都看護協会・会長
	古屋 彩夏	JR東京総合病院小児科・医長

五十音順、敬称略

1

## モデル・コア・カリキュラムの改訂に係ること

- ◆ 「臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善について 医学教育カリキュラム検討会 意見のとりまとめ」（平成21年5月）

- ①臨床実習の系統的・体系的な充実
  - ②地域の医療を担う意欲・使命感の向上
  - ③研究マインドの涵養
- などの観点

2

# モデル・コア・カリキュラムの改訂に係ること

## ①臨床実習（G）の系統的・体系的な充実

- ◆ 基本的診療技能（E3）の内容と「共用試験」のいわゆる「学習・評価項目」の整合性を図る。
- ◆ 診療態度や基本的診断の思考過程の習得を重視すべきで、内科、外科などの項目にある「症例」の列挙は不要ではないか。

3

### I. 診察に関する共通の学習・評価項目

#### (1) 医療安全

- 患者さんの安全を常に心がける。
- 患者確認を行い診察の了承を得る。
- 患者さんの個人情報を守秘する義務がある。
- 診察前に手指の消毒をする。
- 診察前に手および聴診器などを清潔にする。
- 院内感染予防のため手洗いを実行する。
- 医療廃棄物を適切に処理する。
- 有害事象発生時は直ちに指導医に報告する。
- 感染症（麻疹、インフルエンザ等）に罹患またはそれが疑われる時は指導医に連絡し、その指示に従う。
- 高齢者等、介助・陪席が望ましいと思われる患者さんでは、看護師（または他の医療職）に介助・陪席等を依頼する。

#### (2) プライバシー、羞恥心、苦痛への配慮

- 患者さんのプライバシーおよび羞恥心に配慮する。
- 疾病や診察手技に伴う苦痛に配慮する。
- 緊張を和らげるなど患者さんを気遣う。
- 診察の種類に合わせて適切に声をかけ不安の軽減につとめる。
- 介助やエスコートを適切に行える。
- 診察をしない身体部位をバスタオルなどで覆う。
- 手および聴診器を必要に応じて温める。

#### (3) マナー・身だしなみ

- 礼儀正しく振舞う。

医療系大学間共用試験実施  
評価機構(CATO) 作成

こと

いわ

すべ  
列挙

4

## モデル・コア・カリキュラムの改訂に係ること

### ②地域の医療を担う意欲・使命感の向上

- ◆ 地域医療については、19年度改訂において臨床実習（G）の部分に採り入れられた。今回の改訂でも検討する。

### ③研究マインドの涵養

- ◆ 研究マインドの涵養については、下記のような意見
  - ・ 研究マインドの涵養は重要であるが、そもそもコアカリの項目に記載するようなものではない。
  - ・ 準備教育の一部およびFの一部をBに移動してまとめた方がよい。

5

## モデル・コア・カリキュラムの改訂に係ること

### 用語の変更・統一、その他について

- ◆ 「人畜共通感染症」→「人獣共通感染症」  
今回の改訂で、このような修正が必要。
- ◆ 「・・説明できる」、「・・列挙できる」、  
「・・概説できる」、  
このような言い回しも統一を検討すべき。
- ◆ 卒業時までに行われるべき項目（△）については、  
何らかの工夫が必要。

6

## モデル・コア・カリキュラムの改訂に係ること

### 「コア・カリ改訂」に関するご意見伺い

- ◆ 送付先：80大学（校）  
日本医学会 108分科会
- ◆ 送信日：平成22年9月21日（火）
- ◆ 回答締切日：平成22年10月12日（火）